

## 市小中学校規模適正化

### 検討校区本年度にも

教育長

福井市の小中学校の規模適正化について吉川雄二教育長は20日、今年8月に設置する検討委員会

で、年度内にも住民の意見を聞く地域を絞って見通しを示した。「統一廃合ありきではない」とした上で、併せて地域コミュニティの維持についても意見を聞いていきたいとした。

学校規模適正化検討委員会は2019年度まで年3回、計6回の会合を開催。それとは別に地域の意見を集める懇談会も開く。

同日開かれた市会予算特別委員会で、泉和弥委員(一真会)が「本年度最終会合の3回目である程度の(適正化の対象となる)校区が決まるのか」とたずねた。

吉川教育長は子どもの数や施設老朽化を踏まえ、「どの地域に話を聞きにいかなければならぬかは、ある程度早めには絞られていくことになる」と説明。「それが本年度中に決まれば早めに

地域に入りたい。場合によっては4回目の会議でここにいきましよう」と来年度にまたがるかもしれない」と答えた。

自治会組織や地域コミュニティの維持、活性化については「適正化は当然地域に絡んでくる。統廃合ありきで進めようとは思っていない。地域の状況、子どもの数の状況、これからの子どもの教育、そういったことを含めて話を聞けたらいい」とした。

(川上桂)